



### 資料室

尾崎行雄の生涯を文書・写真・書画・書籍等でわかりやすく案内。幼少時の手習いをはじめ、数少ないゆかりの資料も展示し、尾崎三女・故相馬雪香氏から寄贈された図書類を保管する文庫も併設しています。

### 多目的室

当初は建設目的に沿う青少年教育の場として設置されました。現在は講演会や学習会など年代を問わない幅広い市民層も利用。尾崎行雄に関する図書も自由に閲覧できます。



### 「善悪乃標準」碑

正面階段を上った右側、高さ3m、幅50cmの花崗岩製石碑。尾崎行雄敬愛者の保存要望を受けて、昭和46(1971)年に東京・日本橋から移設。碑文は前掲扁額から採られ、「善悪乃標準 世人乃幸福をます言行ハみな善事 之をへらす言行ハみな悪事」と刻字。

### 罌堂桜(普賢象)

米・ワシントンから東京・足立区に里帰りのサクラ4品種を譲り受け、うち1種「普賢象」が「罌堂桜」と命名されて平成4(1992)年2月に植樹されました。正面階段左脇で毎春、みごとに八重咲きを見せてくれるのは、5年後に再植された2代目。



### 【記念スタンプ】

人生の本舞台は常に将来にあり



### 【公共機関をご利用の方】

◇JR横浜線・京王相模原線橋本駅北口からバス「三ヶ木行き」で「奈良井」下車、徒歩10分

### ■利用案内

入館料 無料(駐車場同じ) 開館時間 9:00~16:30  
休館日 毎週月曜日・国民の祝日の翌日(月曜日が国民の祝日の場合は、翌平日が休館)  
年末年始(12月28日~1月3日まで)・その他(臨時休館する場合があります)

## 相模原市立 尾崎罌堂記念館

〒252-0158 神奈川県相模原市緑区又野631 TEL.042(784)0660



# 相模原市立 尾崎罌堂 記念館

# 尾崎行雄(号堂)の生涯

※満年齢

- 安政 5 (1858) 年 0歳 相模国津久井県又野村(現神奈川県相模原市緑区又野)に父・尾崎行正、母・貞の嫡男として誕生(旧暦11/20)。
- 明治 2 (1869) 年 11歳 新政府に出仕した父のもとへ母とともに上京。
- 7 (1874) 年 16歳 慶応義塾に入学。
- 9 (1876) 年 18歳 慶応義塾を退学し、工学寮(東大工学部の前身)に転学。
- 11 (1878) 年 20歳 田中 繁(長崎県出身)と結婚。
- 12 (1879) 年 21歳 福沢諭吉の推薦で新潟新聞主筆となり、繁夫人を伴い赴任。
- 14 (1881) 年 23歳 統計院権少書記官に任官され再上京。
- 15 (1882) 年 24歳 郵便報知新聞論説委員を基盤に立憲改進黨結成に参画。
- 18 (1885) 年 27歳 東京府会議員に当選(東京市日本橋区から立候補)。
- 20 (1887) 年 29歳 保安条例で3年間の東京退去命令(22.2.11大赦)。
- 21 (1888) 年 30歳 欧米視察のため出国し、ロンドンに滞在(22.12.24帰国)。
- 23 (1890) 年 32歳 第1回衆議院議員総選挙当選(三重県5区から立候補)。
- 31 (1898) 年 40歳 第1次大隈内閣の文部大臣就任。「共和演説事件」で辞職。
- 33 (1900) 年 42歳 立憲政友会結党に活躍。
- 36 (1903) 年 45歳 立憲政友会脱党。第2代東京市長就任。
- 37 (1904) 年 46歳 都市計画等、市政改善に着手。繁夫人死去。
- 38 (1905) 年 47歳 尾崎テオドラ英(同姓/英国出身)と再婚。
- 45 (1912) 年 54歳 米国ワシントンD.C.へ桜苗木3,000本を寄贈。東京市長辞職。
- 大正元 (1912) 年 54歳 犬養毅らと第1次護憲運動を展開(閣族打破、憲政擁護)。
- 2 (1913) 年 55歳 桂内閣弾劾演説。
- 3 (1914) 年 56歳 第2次大隈内閣の司法大臣就任。
- 8 (1919) 年 61歳 第1次大戦後の欧州視察のため外遊(平和・国際主義の契機)。
- 9 (1920) 年 62歳 普通選挙要求運動の陣頭に。
- 13 (1924) 年 66歳 第2次護憲運動(普選実施)。護憲三派結成。
- 昭和 6 (1931) 年 73歳 カーネギー財団の招待で渡米。
- 7 (1932) 年 74歳 テオドラ英夫人死去。
- 10 (1935) 年 77歳 衆議院による憲政功労者表彰(27(1952)年再表彰)。
- 17 (1942) 年 84歳 翼賛選挙に反対し、東条内閣に公開質問状提出。「不敬罪事件」で巣鴨拘置所に収監(19.6.27大審院無罪判決)。
- 25 (1950) 年 92歳 米民間組織「日本問題審議会」の招待で渡米。
- 28 (1953) 年 95歳 第26回衆議院議員総選挙で初めて落選。衆議院名誉議員贈号。東京都名誉都民顕彰(第1号)。
- 29 (1954) 年 96歳 神奈川県逗子市の居宅・風雲閣にて永眠(10/6)。

# 尾崎行雄(号堂)とは

尾崎行雄は、徳川幕藩体制が徐々に揺るぎ出すころ、当記念館が建つこの地に生を受けました(幼名:彦太郎)。父の明治新政府出仕に伴い青少年期を東京、高崎、伊勢で過ごし、成人後は新聞論説記者、官吏、東京府議を歴任して頭角を現しました。さらに大隈重信率いる立憲改進黨に属して自由民権論者の急先鋒となる一方、外遊によって世界情勢に通じ、幅広い先見性を備えていきました。明治23(1890)年7月1日、第1回衆議院議員総選挙で初当選を果たし、以来連続25回当選、60年10か月という最長在任記録を樹立しました。

尾崎95年余の生涯を見ると、〈明治期の東京市長時代〉(大正期の憲政擁護運動)〈昭和期の軍部・翼賛体制批判、世界連邦提唱〉が大きな光を放ちますが、そうした時期や年齢に関わらず、絶えず言論と行動をもって立憲民主政治の発展に尽くした人生を送りました。



## 雅号は全部で5つ

琴泉(21歳) → 学堂(24歳) → 愕堂(29歳) → 号堂(45歳) → 孕翁(90歳)と変遷。

## 数々の尊称

多くの民衆や敬慕者が護憲運動期から、「憲政の神様」「議会議政治の父」「憲政の父」「日本民主主義の父」「憲政の先覚」などと呼称。一方、「軽井沢の主」という変り種も。

## 東京市長時代の業績

都市計画事業(市区改正)、水道拡張(奥多摩水源林買収)、鉄道公有化(私電買収)、埋管効率化(ガス会社合併)などが知られ、日本橋再架・街路樹改良・米国桜寄贈は今も話題に。

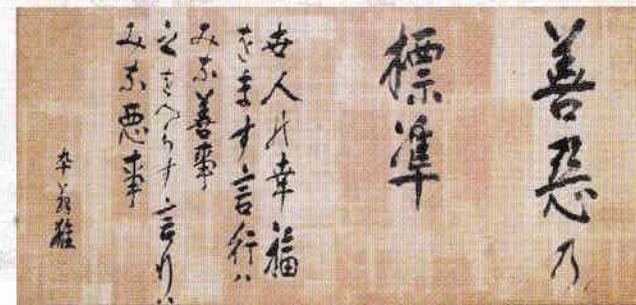
## 正しい議員在任歴

これまで単純計算で〈63年〉〈60年7か月〉と語られていましたが、昭和33(1958)年7月8日の衆議院議院運営委員会算定ルールに従うと〈60年10か月〉が公式通算在任期。

# 尾崎号堂記念館について

当記念館は、尾崎行雄生誕の地に建設され、昭和32(1957)年1月25日に開館しました。戦後の農地改革の際、尾崎家代々の屋敷地は国有地として保存されるに至り、次代を担う青少年育成に期待を寄せた尾崎行雄の意志を反映すべく施設整備の機運が高まり、昭和28(1953)年に「尾崎号堂うまれ地記念事業委員会」が組織されたことが出発点でした。旧津久井郡内ははじめ全国からの浄財や神奈川県等の資金援助を原資とし、残念ながら尾崎没後となりましたが昭和29(1954)年12月25日に着工し、2年後に完成しました。

その後、昭和33(1958)年度に旧津久井町へ寄贈され、平成2(1990)年度には「ふるさと創生事業」の一端として増築と内装改修が実施されました。平成18(2006)年3月の市町合併に伴い、所管は相模原市教育委員会に引き継がれました。



善悪乃標準

## 施設概略図



## 施設概要

- 建物構造 木造平屋建て
- 敷地面積 2,039㎡
- 建物面積 326㎡(当初256㎡+改修70㎡)
- 施設内訳 資料室(文庫含む)、多目的室、事務室(受付)、ホール、WC、回廊、中庭
- 敷地案内 駐車場(前庭)、解説板、尾崎家井戸跡、「善悪乃標準」碑、「ヲザキユキヲウマレチ」碑、号堂楼植栽、ハナミズキ植栽、百周年里帰り桜植栽
- 建築設計 井上一典建築設計事務所(当初)、株式会社比野設計(改修)